

令和 6 年度第 3 回広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時

令和 7 年（2025 年）1 月 23 日（木）14 時 40 分～17 時 10 分

2 開催場所

広島市役所本庁舎 1 4 階第 7 会議室

3 出席者

出席委員（5 名）

田中 貴宏、高田 由美、中村 圭、竹田 宣典、塚本 梓織

欠席委員（3 名）

角倉 英明、今川 朱美、吉田 幸弘

4 議事

- (1) 西平和大橋歩道橋整備事業について（1 回目会議）
- (2) 浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（1 回目会議）
- (3) 平和大通り公園整備事業（第 1 期整備）について（2 回目会議）

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般傍聴者 1 名

報道関係傍聴者 2 社

7 会議資料

会議次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、議事資料

8 会議要旨

(1) 議事 1 西平和大橋歩道橋整備事業について（1 回目会議）

議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

ア 東詰と西詰のビームについて

- ・台座に乗っているような形ではなく、自然な形を検討してほしい。

イ 下部工のデザインについて

- ・表面のテクスチャーは、河川護岸の石積みなど、周辺に調和するものとしてほしい。

ウ 照明について

- ・平和大通りという全体の視点も見ながら、平和大橋歩道橋とのバランスを考慮して、明るさや色味等を踏まえて照明を検討してほしい。

エ 「ゆく」というコンセプトの考え方について

- ・今あるものをどう生かしていくかという視点から、各デザインを検討してほしい。

(2) 議事 2 浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（1 回目会議）

議事内容の説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

ア 歴史的特徴の表現等について

- ・縮景園に隣接するという歴史的な特徴を表現するなどの工夫を検討してほしい。

イ 文化の道との連続性について

- ・主要な道路から当該施設へ誘導する仕組みを考慮しつつ、文化の道（前面道路）との連続性について検討してほしい。

ウ 日当たり（採光）について

- ・前面道路の南側にある建物による日影の影響を把握した上で設計を進めてほしい。

エ 建物の高さについて

- ・建物の高さは、縮景園からの見え方に配慮して設計してほしい。

会議所掌対象外の意見

オ 駐車場や事務・管理エリアについて

- ・児童の校外学習等での利用を想定する場合、バス等の駐車をどうするのか検討してほしい。
- ・収納や作業スペースなどの事務・管理エリアの面積を十分確保することで、将来の使い勝手に柔軟な対応ができるよう設計を進めてほしい。

カ 施設の運営について

- ・施設の見栄えを維持するためにも、誰がどのように使い続けていくのかまで検討してほしい。

キ 文化の道の周知について

- ・文化の道を周知するための工夫を検討してほしい。

(3) 議事 3 平和大通り公園整備事業（第 1 期整備）について（2 回目会議）

1 回目の会議での委員からの意見等を踏まえた設計内容について説明を行い、デザイン上の配慮事項に関する提案を受けた。今後の検討事項は次のとおりである。

ア ゾーンについて

- ・ゾーンごとの特徴について、特性を意識しながら整備を進めてほしい。

イ 設置物について

- ・一つ一つが長く残るため、クオリティーが高いものを目指してほしい。

ウ 照明について

- ・きつくなり過ぎないように、平和大通り全体のことを考えた照明を検討してほしい。

会議所掌対象外の意見

エ 遊具の設置場所について

- ・子供の教育を考えてエリアの雰囲気にも配慮してほしい。

【会議概要】

○白須都市デザイン担当課長補佐

（開会挨拶、配布資料確認、出席者紹介及び議事説明）

○田中座長

それでは、本日の議事(1)「西平和大橋歩道橋整備事業について（1 回目会議）」の説明をお願いします。

○片寄道路計画課長

(議事(1)「西平和大橋歩道橋整備事業について(1回目会議)」の説明)

○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

○中村委員

基本的に平和大橋の対になるので、歩道橋及び照明についても、やはり対になっているほうがよいのではないかと感じた。ただ、東西で「つくる」、「ゆく」というふうに、同じコンセプトではなく、造形も違う。特に、欄干の端が、「つくる」のほうは上に向かって丸い造形になっていて、「ゆく」のほうは地面に潜り込んでいく形になっている。この潜り込んでいるところの処理が今回一番難しいところだと思う。図面で見ても、この部分をそのままにしておくと、歩道橋から入ってきた方がつまずいたり、自転車が乗り上げたりするようなことが想像でき、現地を見てもそう思った。6ページのパースは、植え込みを一段上げて、いかにも台座に乗っているような形のため、自然と地面に何か入っていくようなイサム・ノグチのコンセプトの印象が変わると感じた。歩道橋がつかない海側の欄干の端の処理も少し敷地の部分は変えられると思うので、同じような課題があると感じた。7ページの右下にある、平和大橋の現況写真では、一段上げるのではなく、逆に一段下げて土を見せて、そこに欄干の端が立っているようになっているので、こういうやり方は一つあるのかなと思った。

○片寄道路計画課長

ビームが土に突き刺さっているところは、我々もとても特徴的なものだと思っている。しかし、安全面を考慮したときに、平和大橋のように低くするのがいいのか、どのような対応ができるか、設計の中で検討させていただければと思う。少し盛り上がっているのが、今のイメージを少し損なうのではないかという意見と受け止めてよいか。

○中村委員

ほかの委員もどのように感じられたか、聞いてみたい。

○西井道路計画課課長補佐

4ページの写真②と写真③にあるように、緑地の部分に潜り込んでいるものと、歩道の一部のような形でブロックの中に入っているものもあり、どちらがよいのかというのはあるが、おっしゃられるような自然の形がいいのかなということから、緑化で囲むパースを作成した。緑地の部分を少し広げることや、橋の動線にかからないところについて考慮するというのはあるかと思う。そうすることで、より自然に入っていくようなものが出せるか、また検討していきたいと思う。下流側についても、できるかどうか詳細な検討をしてみたいと思う。

○竹田委員

下部工について、構造的ではなく、デザイン的な検討はこれからか。

○巽技師

上部工もそうだが、下部工については、河川管理者と協議の上決定していくが、河川構造令で下部工は小判型と定められているので、基本的にはその形で設計しようと思っている。現在、予備設計をしていて、土質調査をしている最中なので、基礎の形状や、施工方法はこれからになるが、河川構造令にのっとった形で施工しようと思っている。

○西井道路計画課課長補佐

補足させていただくと、7ページ左下の写真で、平和大橋歩道橋の橋脚は一基あるが、こちらのよう形で西平和大橋歩道橋は橋脚が二基できると思う。やはりコンクリートの構造物になるが、つるつとした型枠ではなく、例えば、化粧型枠が使えるかなど、平和大橋歩道橋を確認して、デザイン的な配慮ができればと思う。

○竹田委員

つるつとしたコンクリートののっぺらではなく、河川護岸が石積みになっているので、その調和も可能だと思う。形は大きく変えられないと思うが、表面のテクスチャーは割と自由度があるのではないかと思うので、ぜひデザインという面で検討いただければと思う。

○高田委員

先ほど中村委員が言われた、足元の部分の台が高過ぎるのが私も気になった。平和大橋歩道橋のほうも囲まれているところが一か所ほどあると思うが、そこはあまり高くなかったもので、そこまで気にならないのかなというのもあって、ブロックと欄干の色が同色系なので、自然さがないというか、ここが引き立たないのではないかと思った。先ほど、緑地部分を少し増やすという話があって、それは本当に自然な感じでいいのではないかと思った。

もう一つ気になったのは、照明である。平和大橋歩道橋の照明と同じようになるイメージかと思う。確かに、同じようにするのがいいのかなとも思うが、対なので全く一緒にしなくてもいいのではないかと前々から少し思っていて、というのも、夜に見ると、かなり明るいイメージである。意外とあの辺りは、夜あまり明るくないため、真っすぐなところはすごくシャープな感じに見え、支柱に立っている照明も非常に明るいと思っていた。ほとんどの人が見るわけではないが、ビルの上から見たときに、真っ暗なところにその点状がすごく目立つ。平和記念公園があるので、そこはほんわかした照明があるが、平和大通り側は、夜になるとあまり照明がない。割と暗い中なので、平和大橋歩道橋と同じ明るさ、同じトーンでつけると、夜は明る過ぎるのではないかと思った。

○片寄道路計画課長

現地を確認して検討したいと思う。コンセプトの「つくる」と「ゆく」だが、我々もこのデザインを考えていくに当たって、何か表現できるものがないかというところは、正直考えた。イサム・ノグチの独特な世界、その中でこのコンセプトをデザインに表現するところまではなかなか行き着かず、まさにそういった思いが込められている欄干を隠さないというのが一番大事だと思ったので、「つくる」のほうは何か元気が出ていくみたいな、「ゆく」のほうは寂しい感じで、そういったイメージあり、我々がそこをデザインにうまく盛り込めないところもある。何か先生方のほうでアイデアがあれば、ぜひ聞かせてほしい。

○中村委員

平和大通りを一番西から東まで、ずっと車や徒歩で行ったときに、その中央にある平和記念公園とそこをつなぐ二つの橋がどのような照明なのかというような、何か二つのポイントで考えるよりも、大きな大通りの中の非常に中心的な構造物の見え方が同じ照明なのか、少し明るいとか、何か感覚が違うとか、そういったところでどう見えるのか考えると、より広島市の公共デザインとしてよいものができるのではないかという気がした。片方だけ通る方と両方通る方、特に日常的に通る方は両方渡る方も多い。そういう意味では、セットで見え方は少し違う、特に夜間の見え方が違うというのは、ありなのかもしれない話を聞いて思った。

○片寄道路計画課長

橋だけではなく、その間にある平和記念公園も、夜独特なライトアップをしているので、その辺りも踏まえて、またライトアップ等検討したいと思う。

○竹田委員

防災時の配慮はしているのか。例えば大地震が起こって、本橋が崩れてしまって、補助的な使い方として歩道橋が使えるのか、その辺りは検討の範囲に入っているのか。

○西井道路計画課課長補佐

防災を視点に検討したというものはないが、通常の耐震基準に合わせた地震に強い構造にはしている。広幅員ということで、自転車や歩行者に対しては余裕のある幅員を平和大橋歩道橋と同じく確保しているので、そういう使い方ができるとは思う。

○竹田委員

歩道橋は、緊急時は車が通れる設計なのか。

○西井道路計画課課長補佐

車までは通れない。

○竹田委員

車が通るとなると、かなり大規模になるか。

○西井道路計画課課長補佐

構造的にかなり大きなものになってしまう。

○竹田委員

分かった。

○田中座長

それでは、皆様から御意見をいただけたと思うので、まとめをさせていただく。

一つ目は、東詰と西詰のビームのところについて、先ほど言われていたイサム・ノグチのものを残していくときに、あそこが大事なのではないかというところが、一つこの会議の委員の皆さんのある程度の総意かと思った。台座に乗っているような感じは少し違うという話があったと思うので、その辺り少し検討してもらえるといいかなと思った。

二つ目は、下部工について、デザインはこれからという話かと思うが、周りと調和するようなことも考えるといいという話があった。

三つ目は、照明について、少し明る過ぎるのもどうかという話や、平和大通りという全体の視点も見ながら、平和大橋歩道橋と西平和大橋歩道橋がどういうバランスで並んでいるといいのかというようにところを考えてもらえるといいかなと思った。明るさを変えるという話や、色味を変えるという話もあろうかと思った。そうすると、どういうコンセプトであそこを見せていくかというのは、考えるポイントとしてあるかと思う。少し落ち着いた感じにしていこうというのは、色味でも変えられるのかなと思った。

四つ目は、コンセプトとして「ゆく」という部分をどう考えるかについて、今あるものをどう生かしていくかというところが視点として必要なのかなというところで、一つ目の東詰や西詰の話と少しかぶると思う。

五つ目は、防災の観点から話があった。

最後に、私から一点、デザインとしては基本的に平和大橋歩道橋のほうと合わせていこうという、大きな方向性としてはそういうことだと思うが、現状、平和大橋歩道橋で大きな課題というのは今のところないという理解でいいのか。

○片寄道路計画課長

はい。平成30年に架かった歩道橋は広幅員で、観光客も年々増えているので、安全にゆったりと歩いていただいて、平和大橋は原爆ドーム等も見えるので、平和記念公園の中で平和について考えてもらえるいい空間ではないかと思っている。

○田中座長

分かった。そうすると、基本的にはそれを踏襲してという話だと思う。

議事(1)については以上である。

○田中座長

それでは、本日の議事(2)「浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（1回目会議）」の説明をお願いします。

○井上施設整備担当課長及び設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

（議事(2)「浅野文庫等施設（仮称）新築工事について（1回目会議）」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

○中村委員

基本的に、浅野文庫を中心とした専門図書館が縮景園のすぐ近くにできるということだ
と思う。そのときに思ったのが、広島城三の丸歴史館ができるなど、縮景園を含め、広島
の歴史を伝えるようなエリアの大きな再開発というか、いろいろな開発が進む中で、この
建物も重要な一部としてできると思う。縮景園の隣にあり、広島の歴史的な特徴を表現す
るような、何か工夫みたいなものはどのように考えられているのか、造形的なことではな
くても、何か意識されているところがあるのか。広島城とは少し離れ、縮景園とは隣接し
ているとはいえ、もともと広島城はすごく広くて、この一帯はここから広島は始まったと
いうエリアなので、一体感やつながっている様子が伝えられるといいと思うが、何か考え
があるのか聞きたい。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

具体的に決まっていないが、例えば色彩や陰影みたいなところは、一つあるかなと思う。

あと、整備場所の前面に文化の道というのがあり、今、歩道としては整備されているが、
連続性などをもう少し強化していくのは、全体の広島のまちづくりとしてはあると考えて
いるので、前庭の造り方などを検討していきたい。

○竹田委員

現地視察が14時ぐらいで少し陰ったが、前面道路の向いに高いビルがあるので、ほと
んど日が当たっていなかった。パースを見ると、ガラス窓で光を取り入れるような設計に
なっているが、建物に日が当たる時間は調査しているのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

前の高いマンションでの影響というのは調査していないが、今回扱うものが貴重な歴史
的な資料でもあるので、日が当たらないことも資料保存としてはプラスに働くと思う。

○竹田委員

収蔵するところは日が当たるといけないと思うが、開放するという非常にオープンなコ
ンセプトだと思うので、なるべく日を取り入れるような工夫ができればいいのではないかと
思った。

一階部分は、これは盛土して上がっているのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

はい。プロポーザルのときには、水害対策として少し1F Lを上げた計画で提案したが、
今後、1F Lの設定については、設計を進める中で最終的な調整をしていく。

○竹田委員

今の市長公館は、二階建てで階高も低いので、下のほうは日が当たっていなかったが、
上のほうは少し当たっていた。いくらか上げるほうが日当たりはよくなるのではないかと
思った。

○高田委員

歴史や郷土というと、あまりなじまないのかなというところに、子供たちに配慮されて
いるところがすごくいいなと思った。

例えば授業の時間にバスで来るようなことがあると思うが、そのような駐車場はないの
か。駐車場はあまり数がないようだが、どのような方が対象なのか。

○井上施設整備担当課長

一般の来館者については、敷地面積が限られており、周辺の民間の駐車場も活用してい
ただきたいと考えている。バスについては、まだ検討していない。

○高田委員

子供たちが授業などでも来ると楽しいのではないかと感じたので、質問してみた。

パースでは、囲いがガラスっぽく、外の縮景園のものも取り込めていて、この中間領域というのがとても気持ちのいい空間になっていて、何か楽しい空間になるのではないかと考えた。

色彩はこれからだと思うが、現地視察のとき、県立美術館の色と少し似ている感じがして、あまりちぐはぐ感がなく、つながりがあるイメージがしたので、すごく感じがいいなと思った。

一つ質問だが、パースの屋根のところで、上に何か白く伸びているものは何か。高さが少し気になった。今の市長公館は二階建てだが、もっと高くなると思うので、縮景園のほうから見えない考慮をしたいという話もあったが、この高さのものは何か。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

今設定している白い固まりは、屋外機などの設備機器が乗るスペースで考えている。日影規制がかかって、これ以上高くできないため、機能を満足させた上で、ボリュームをなるべく抑えながら、今後、設計を進めていきたいと考えている。

○塚本委員

現況写真の⑧を見て、電車通りからこの施設の場所が分かりづらいと思った。先ほど、文化の道との連続性の強化と言われたが、私も広島に住んでいるが文化の道を知らなかったもので、これから文化の道をもう少し感じられるような、この施設への誘導も一緒に考えてもらいたいと思った。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

何かアイキャッチになるものを造るなど、考えていきたいと思う。

○中村委員

1階から3階まで共有エリアがたくさん設けられていて、当然いろんな活動ができると思う。前庭も、オープンな場所でいろんなことができ、本を見ることだけに限らず、いろんな文化に触れられるようなスペースということだと思う。

すると、誰がこれをやるのかというところが、ずっと続けてある程度のクオリティーでなったときに、この専門図書館の職員の方の負担がかなり大きくなってくと思う。

また、いろんな市民の方に使ってもらうときに、私も駐車場のスペースが気になった。物を置いたり入れ替えたり、そういった仮設の什器類などを入れておくバックスペースみたいなものが結構広めに必要ではないかと思った。これぐらい共有エリアがあると、ユーティリティー的なスペースが必要だと思うが、その辺りはどのように計画されているのか。

○設計業務委託者（株式会社久米設計 野原氏）

まず、どうやって使っていくかという話だが、我々も建物を造って終わりではなく、できてからが本当の施設のありようだと思っているので、実際どういう方が来て、どういう活動をしていったらいいのか、それをどう管理したらいいのかというのは、調整しているところだ。実際、指定管理経験のある展示会社と一緒にやっているため、他の事例も踏まえながら、どういう形が一番少ない負担で使ってもらえるか、ハードでできるところ、ソフトでお願いしなくてはいけないところをうまく調整できればと考えている。

次に、保管などのスペースについては、プロポーザルでは、例えば展示室であれば、企画展示などをすると、どうしても物品が増えるので、展示室の横に準備室を設定している。市民の方に使ってもらう共用エリアを大きく取っているが、規模も限られているので、例えば通路も兼用して、できれば廊下のない、どこでも使えるような効率よい計画にしていきたいと考えている。

○中村委員

近くにいろんな歴史的な施設が新設されているので、きっと連携しながら、コンテンツ等を運用して、館外のリンクもしていくのではないかなと思った。

これぐらいガラス張りになっていると、イベントなどいろんな見栄えみたいなものがガラス越しに外に見えてくると思うので、その辺りの格式みたいなものは、職員の方の研修などがとても重要だと思った。いい建築物ができて、年々貼り物が増えていって、少しずつイメージが変わってくるということはよくあると思う。観光客の方や県外から来る方もたくさんいると思うので、広島歴史文化を発信するという意味では、そのコントロールは結構課題で、重要だと感じた。

○田中座長

それでは、皆様から御意見をいただけたと思うので、まとめをさせていただきます。

一つ目は、この土地の歴史について、デザインではないのかもしれないが、歴史的特徴をどうやって表現していくかというところを考えてもらえるとよい。

二つ目は、文化の道としての連続性について、多くの委員から話があった。文化の道自体がなかなか認識されていないと思うので、この事業の中でということだけではないと思うが、もう少し周知されるような工夫があるといいと思った。実際、私たちは研究でアンケート調査もしているが、文化の道はほとんど知られていない。前庭の造り方などもポイントになってくると思う。

三つ目は、日当たりについて、少し懸念があるというところで、配慮してもらえるとよいと思う。

四つ目は、高さについて、ここに合うボリューム感、高さ感に収まるよう、配慮してもらえるとよいと思う。

五つ目は、駐車場やバックスペースについて、少し空間として余裕があったほうがいろいろなことに対応できるのではないかなというような話があったと思う。将来的には、文化の道の中で、一つ何か活動の拠点になることもあると思うので、受け入れる余地みたいなものがあるといいと思う。

六つ目は、どちらかというとソフトな話かと思うが、どう使っていくか、誰がやるかについて、こういった施設だと大事になってくると思う。長期的には、この建築物の見栄えにもつながっていくので、検討いただけるといいと感じた。

議事(2)については以上である。

○田中座長

それでは、本日の議事(3)「平和大通り公園整備事業（第1期整備）について（2回目会議）」の説明をお願いします。

○小山専門員

（議事(3)「平和大通り公園整備事業（第1期整備）について（2回目会議）」の説明）

○田中座長

ただいまの説明に対して、御意見等あればお願いしたい。

○中村委員

広島市内の背骨というか、ど真ん中にある広島市の公共スペースとして、平和記念公園と並んで非常に重要なスペースのデザインということだと思う。

1ページの整備の方向性のところで、重要な場所だからこそだと思うが、非常に多くの方向性が上げられていて、どれも大事なことだが、五つの方向性をどのように組み合わせるかというところが一番難しいと思う。それぞれのゾーンで強弱というか、例えばこのゾーンは鎮魂を特に大事にしている、このゾーンはにぎわいを特に大事にしているというような性格分けはあるのか。

○小山専門員

平和大通り公園の整備に当たって、令和4年度に整備イメージという、実施設計に入る前段階の大きな方向性を整理した。その中で、平和大通り全体として、鎮魂、憩い、にぎわい、おもてなしという四つの要素の調和が取れている整備を進めることにしており、ゾーンごとの特性を踏まえて、少しずつ濃淡が違っている。例えば、被爆者の森があるAゾーンは、ほかのゾーンよりも鎮魂の要素が強いゾーンとしている。Cゾーンは、中四国地方最大の商業業務地である紙屋町・八丁堀に位置し、平和記念公園を訪れる観光客など、人の流れを呼び込むための拠点になると考えているため、特ににぎわいやおもてなしの要素が強い機能を持たせる。例えばカフェ等の飲食物販施設の設置を行うこととしているので、官民連携で整備を進めようと考えている。

平和記念公園に接するEゾーンは、今後の実施設計になるが、鎮魂の要素が一番強いエリアになるのではないかと考えている。

○中村委員

それぞれのゾーンで少しずつテーマに強弱があるという説明だったと思う。

資料でも多くの機能や設置物があるが、たくさんいろんなものを造ると、5年、10年、15年と経ったときに、きちんとメンテナンスし続けるのは結構大変なことだと思う。平和大通りの特徴は、樹木や記念碑、慰霊碑がたくさんあることと、街路が中心になると思う。すると、ベンチなどの新規設置物については、個々のコストなど、いろんな条件でできることが限られると思うが、慰霊碑や樹木のように何十年ずっと残るものについては、クオリティーがすごく重要だと思う。

歩いていると、結構地面ががたがたしていて、高さがぼこぼこしていたり、あるところは急に狭くなっていたりするところが散見されるので、それぞれスポットで置くものは、実はそんなにたくさん必要はないと思う。それよりも、ずっと歩いたときや車窓から見える連続した景色として、ゾーンをまたいで歩いたときに、どこを歩いてもすごくきれいな沿道だなと感じられるような、ベースの部分のクオリティーの底上げをしっかりされるといいと感じる。そういう意味では、花壇や芝生の管理がしやすい整備も必要かと思う。

イサム・ノグチの遊具は、もう造られていないということだが、イサム・ノグチ財団に相談したら、平和大通りに設置するなら、結構相談に乗ってくれると思う。平和大橋はイサム・ノグチのデザインした構造物としては唯一のものだということで、一つのプロジェクトとして考えても、イサム・ノグチのものが市内にもう少しあっても、広島市の観光というか、平和大通りの目玉の一つに十分なり得ると思う。一回設置すれば、恐らく何十年とバリューは果たせると思うので、トライする価値はあると個人的に思う。

○小山専門員

香川県にある庭園美術館の事務所が遊具を担当しており、今回の整備に当たって提供してもらえるかどうか確認したが、遊具の安全基準に適合していない部分があり、生産を休止しているということだった。例えば安全基準を満たすために、手すりみたいなものを単純に追加すればいいというようなものではないので、再開の見込みが立っていないことを確認している。現状では、平和大通りの緑豊かな環境に合うような遊具の計画を進めている。

○中村委員

しっかり交渉されていると分かった。ちなみに広島市立大学にはイサム・ノグチのオレンジのテトラポットがある。彫刻の教員が頑張って設置したと思うが、あれも安全上大丈夫なのかと、今の話を聞いて不安に思った。テトラポットなので、遊具ではないと思うが、中に入ったりすることはできる。

○高田委員

Bゾーンについて、前回会議で、遊具があるのでそのまま遊具をつけたという話があったため利用率を聞いたら、それはまだ調べていないということだった。ここは、流川と薬研堀の出口で、どちらかといえば、大人のまちというイメージがずっと強く、ましてや、昼になると、夜華やかなまちというイメージがあるので、前回の話では、この反対側にするというものもあるのではないかという意見も出たと思うが、今回変わっていなかったのも、経緯なども教えてほしい。

○小山専門員

まず、利用者数について、道路のため通行者数は調査しているが、ほかの公園のように利用者数をカウントするということはしていないと思う。中央通りと鯉城通りに囲まれたCゾーンなどに比べると、通行者数は少ないのかなと考えている。

それを踏まえて、Bゾーンに遊具があるのがいいのかというところだが、計画としては、例えば照明灯を増設するなどの安全対策を十分にした上で、遊具を設置するゾーンはこのゾーンにしたいと考えている。

○高田委員

絶対そこじゃないと駄目だったという感じに聞こえたが、ほかのところだとまずかったのか。やはり大人のまち、夜の街というイメージが強かったので、どうなのかと思う。

○小山専門員

現状遊具があり、ここにマンション等もあって住人もいる中で、ほかに移設するというのではなく、現状の遊具がある場所で、新たな遊具に更新するという事で考えている。

○高田委員

Bゾーンの展望デッキは、少し高さのあるものを考えられているということだが、上がって少し高いところから何かいいものが見えるのか。眺めが少しいいところなのか。

○小山専門員

遊具のあるBゾーンにもともと計画していたが、樹木を中心とする景観の中で、高さや規模に違和感があるという意見を前回いただいたので、高さを少し低くするということに計画を変えることを検討中であるため、見直した上で検討していきたいと考えている。

○高田委員

樹木との兼ね合いで、高さを造るのは単調になってしまうので、高いところもあったほうがいいという考えなのか。

○小山専門員

最終的にはまだ決まってないので、またご説明しようと考えている。

○高田委員

ローポール照明は、敷地と歩道の境に、低いラインをつくるというイメージなのか。

○小山専門員

副道や駐車場がある側ではなく、それぞれのゾーンの緑地の中の歩道側に、歩道と緑地の境の付近に高さが低いものを連続して設置するという計画である。

○高田委員

低い照明はそこだけなのか。現在、道路側には背の高いものがあるのか。

○小山専門員

道路については、車道や副道にそれぞれ街路灯が設置されている。平和大通り公園の整備に当たっては、背の高いタイプの照明灯も緑地の中に安心・安全に使えるように新たに整備し、加えてローポール照明を設置する計画である。

○高田委員

このローポール照明を見たときに、先ほどの話の平和大橋の支柱のところのものと何か連続性があると感じた。

○中村委員

展望デッキは、私も同じことが気になった。ここから何が見えるのかということでしょう、よりよい設置場所があるのではないかと思います。例えば平和大橋が見えるなど、展望台なのであれば、むしろ木の高さを少し超えるぐらいでないと、平和大通りの木がずらっと並んでいるのがすばらしいと思うので、半端な高さだとそれがよく見えないのではないかと思います。木の高さを少し飛び出るぐらいの高さがあったほうが、みんなが来たくなるような展望台になると思った。

平和とにぎわいという意味では、慰霊碑等に清掃や献花されている、ふだんそこを訪れている方もいたり、にぎわいでいうと、フラワーフェスティバルが大きい話だと思うが、ずっとそこを使われている方の声を受けるようなことはされているのか。

○小山専門員

慰霊碑を設置されている方々には、話を聞いた上で、慰霊碑を巡るような通り全体をつなぐ園路を整備するほか、慰霊碑を巡りやすいように、例えば慰霊碑の周辺を少し舗装するなど考えている。

○高田委員

照明が気になっている。平和大橋のほうは少しきついなという印象があるので、あまり点が強調されないような照明であるといいと思う。

○田中座長

それでは、皆様から御意見をいただけたと思うので、まとめをさせていただきます。

一つ目は、ゾーンについて、名前をつけるまではいかないにしても、ゾーンごとに強弱はあるので、少し言語化されると分かりやすくなるのかなと思った。

二つ目は、設置物について、全体を通していろんなものがこれから入っていくと思うが、長く残っていくものは、クオリティーが高いものがやはり必要ではないかと思う。

三つ目は、Bゾーンについて、遊具があって子供がたくさん来るエリアが、ここがいいのか、子供の教育を考えていくという意見としてあった。明るさだけではないと思う。このエリアの雰囲気もあると思うので、配慮するといいと思う。

四つ目は、照明について、このエリアの特性を考え、きつくなり過ぎないほうがいいという話や、平和大通り全体のことを考えたときに、ここはどうあるべきなのかという、引いた視点を持つといいと思った。

最後、一点だけ確認なのだが、Aゾーンについて、4ページだと一番京橋川沿いまでゾーンがあるが、8ページでは、そこが一個手前で切れているような感じだが、これはどちらが正しいのか。

○小山専門員

Aゾーンは、4ページで示している点線で囲った区域で、これが整備イメージを作成するときに公園として利活用していくと考えているエリアであるが、一方で、8ページは、一番鶴見橋寄りのゾーンが含まれていない。これは、鶴見橋側のゾーンは、鶴見橋と一体となったような整備をされていて、今回、公園を整備するに当たり、新たに施設整備を行うエリアではなく、現状のまま公園として使っていくというゾーンで、実施設計の範囲には入っていないので落ちているという状況である。

○田中座長

ただ、公園というか、空間としては一体なので、ミスマッチがないようにしてほしいと思った。最後は私からの補足になる。

ただ、一方で、前回話があった、境界を曖昧にするようなデザインがいいという提案に対応してもらい、非常にありがたく思っている。

議事(3)については以上である。